2008年夏季地域枠学生に対する
離島医療学特別セミナー
報告書

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　離島へき地医療人育成センター

ごあいさつ

離島へき地医療人育成センター
センター長　嶽﨑俊郎
（兼　国際島嶼医療学講座教授）

離島医療、さらにそこで重視されるプライマリ・ケアを学ぶにはロールモデルに接することが重要です。

鹿児島県には南北600kmに渡り、28の有人離島があります。それでは、離島住民の健康を守るためにプライマリ・ケアを中心に様々な医療が行われています。鹿児島大学では、離島医療をそれぞれの離島の特性を生かした医学教育の場として活用して、鹿児島大学では医学部6年生全員に離島実習を行っています。

ところで、鹿児島県の離島へき地医療の担い手として期待される地域枠学生が2005年度より鹿児島大学に導入されています。彼らには、将来医療を行う離島へき地医療現場における診療体制やプライマリ・ケア、保健・福祉活動、全人的医療への理解を深め、入学当初の志を再認識してもらうため、「離島へき地医療学特別セミナー」をもうけました。

この実習の趣旨は、離島医療の一現場である屋久島を地域医療ロールモデルの１つとして、離島医療システムと現場における医師の役割を学習することです。また、この実習を通じて、同じ地域枠学生の学年を超えたつながり、鹿児島県や当センター職員とのつながりを深め、今後の研修目標をたてることができれば、有意義なものになると思います。

地域枠学生に対する「離島医療学特別セミナー」報告書

【目的】

学生同士の学年を超えた交流と、離島へき地医療への関心を高めることを目的とする。

【計画】

平成 20 年 8 月 5 日～7 日　離島研修

場所；屋久島

研修施設；栗生診療所、ゆっくりかん

宿泊施設；鹿児島大学屋久島町共同フィールドステーション

	A 班（担当：大脇先生）	B 班（担当：根路銘）
学生	中野、新村 松崎、徳永	八代、宇佐美
8 月 5 日（火）	10:20　鹿児島港発（高速船トッピー）099-226-0128 13:00　安房港着 トヨタレンタカー　0120-89-4046　2 台 13:00　昼食 14:30　鹿児島大学屋久島町共同フィールドステーション着 15:00　診療所実習準備 血圧測定、エコーの教育講演（新村先生、大脇先生） 18:00　夕食	
8 月 6 日（水）	8:00　出発 9:00　栗生診療所訪問 12:00　昼食 13:00　ゆっくりかん見学 17:00　診療所発	7:45 鹿児島港発（トッピー） 9:45 宮之浦港着 11:00　栗生診療所訪問 12:00　昼食 13:00　診療所 17:00　診療所発
	18:00　鹿児島県（中俣室長）講演 19:00　座談会	
8 月 7 日（木）	13:30　安房港（高速船トッピー）099-226-0128 15:30　鹿児島港着 15:40　解散	

＊1 年生は、生化学試験のため初日の出席はできず。

8 月 5 日（火）

10:20　鹿児島港発（高速船トッピー）

トッピーの搭乗手続き中。

13:00　安房港着

天気も良く、船酔い者もなく無事到着

13:00　昼食　港近くのレストランで。

14:30　屋久島フィールドステーション着

空調の利く部屋は 2 つしかなく、それぞれ男女部屋に。

15:00　血圧測定・聴診・エコー検査実習　（新村先生、大脇先生）

2 年生、3 年生は各自での血圧測定や教員を被験者にしたエコーの実習を行いました。

18:00　夕食

1. 初日の血圧測定・聴診・エコー検査実習について（＊1 年生は未参加）

（良かった点）

・普段容易に使える道具ではないので、実際に貴重な実技が行えたことは自分自身にとって大きなプラスだったと思います。エコーの映し出す仕組みや臓器の構造などはまだ理解不十分なところなので、自分で詳しく学んでおくべきだと感じました（M2）。

・普段講義では学ばないけれど、医師が行う基本的な作業について、実際に行えたことが一番よかったと思います。血圧測定は、機械でしか行ったことがなく、自分の耳で聴いて自分の目で確かめられたのは面白かったです。エコー検査では、とても高価な機械を扱うことに勝手に緊張してしまいました（M2）。

・循環器の学習したばかりだったので実際にエコーを見られたことはとても勉強になりました。とくにMモードエコーは授業でもよくわからなかったところだったので、丁寧にご指導していただいて本当によかったです（M3）。

・講義でちょうど教わっていた内容でしたが、改めて説明していただき、大変わかりやすかったです。もっとちゃんと勉強をせねば・・・としみじみと実感しました。

血圧測定では、1 年のころに手打診療所でも教えていただいていたのですが、心臓のことなどを学んだあとではまた違い、大変わかりやすかったです。しかし、実際に短時間で患者さんの測定を手際よく行っている先生方や看護師の方々はすごいなぁと、改めて感じました。

聴診については、循環・呼吸器をちょうど教わったばかりで、教科書だけで見ていても、いまいちよくわからなかったのですが、実際に聴くことができ、よかったです。聴診器をうまく使いこなすことが、医師としての基本だろうと思うので、もっともっとちゃんと聴けるように学んでいこうと思いました。

また、エコー検査ではわざわざエコーを持ってきていただき、自分でもやらせていただき、本当に為になりました。講義では、目で見るだけでしたが、実際にやらせていただき、臨床に近い形で、すっごく面白かったです。異常を見つけるためにはまず正常をしっかりと知っていることが第一だと思うので、しっかりと勉強していこうと思います（M3）　。

（改善したほうが良い点）
・改善点は特にありません（M2）。
・特に思いつきません（M2）。
・とくにありません（M3）
・特に思いつきません。ただ、私たち 3 年にとっては大変為になりましたが、まだ臨床に入っていない 2 年生に対して、自分たちだけ楽しんでしまって悪かったなぁ・・・と少し不安に思うところもあります。。。（M3）。
（次回以降希望する内容）
・今回は初日参加することができなかったので、今回と同様の内容を次回は自分もしたいです(M1)。
・エコー検査はもう少し詳しく学んだ後にもう一度やってみたいです（M2）。
・検査用の機械にどんなものがあるか知らないので何ともいえませんが、扱ったことのないような機械で実習をしてみたいです。機械は頑張って持ち運びします（M2）。
・具体的には思いつかなかったのですが、やはり授業ではできないようなことができれば嬉しいです（M3）。
・内容と書けるほど、まだ深く医学を学んでいないため記述できることはありませんが・・・やはり臨床に近いものをしていただけると、普段の講義とはまた違って、学ぶこともさらに多いのかなと思います（M3）。

8 月 6 日（水）

各自起床して 3 階で朝食。
8:00 に出発。

9:00　栗生診療所訪問

1 年生
7:45　鹿 児 島 港 発
9:45 宮之浦港着

12:00　昼食

　藤村先生と栗生川をさかのぼって弁当で昼食。

13:00　ゆっくりかん見学

その後、藤村先生の医療に対する講義

17:00　診療所発

途中、尾之間温泉に立ち寄り入浴。

そのころ、フィールドステーションでは、大脇教授、嶽崎教授が、夜のバーベキューの準備をしていました。

18:00 県の講演会（中俣室長）

19:00 懇親会

2. 栗生診療所の実習について

（良かった点）

・1 年生は少しバタバタでありましたが、新村先生が診察しているのを見学させていただいたり、栗生診療所の先生の熱いお話を聞かせていただき先生ほどとは行かないまでも自分が将来離島医療に携わるものとして目指す医師像というものが以前よりはっきりしてとても良い機会になりました（M1）。

・地域の人々との会話・在宅医療の見学・藤村先生の話などすべてが充実した内容で、本当に貴重な実習だったと思います(M2)。

・診療所にきている患者さんたちと話すことができてよかったです。いろんなことが聞けました（M2）。

・先生にいろいろな場所に連れて行っていただいて、とても充実した実習だと思いました。患者さんたちもいろいろと気さくにお話してくださって楽しかったです（M3）。

・実際に先生方が診察されている現場を見学させていただき、大変ためになりました。藤村先生がどのように患者さんと接しているのか、ということを間近で見させていただき、患者さんが先生のことを大変信頼している姿や、些細なことまでちゃんと患者さんのお話に耳を傾けていらっしゃる先生の姿が心に残りました。

　また患者さんと直接お話をする時間をいただき、患者さんから「がんばって勉強して、いい先生になってね」と声をかけていただいて、「がんばらなきゃな」と改めて身が引き締まる思いでした。

　「ゆっくりかん」では、建物の雰囲気から大変和やかな感じで、働いていらっしゃるスタッフの方も、通われている方々も、優しく受け入れてくださいました。私たちをゆっくりかんに送ってくださるときに藤村先生が、「年寄りの心を開くのは難しいぞぉ～」と言われましたが、実際に接していて、確かに心の奥にある本音まで話してくださるようになるまでの信頼を得ることは、そう簡単なことではないだろうな、と感じました。いかにして、心を開いてもらうか、ということを学ばせていただくよい機会でした（M3）。

（改善したほうが良い点）
・改善ではないのですが、一意見として診療所の周辺の方々に先生についてだけでなく、診療所の存在について意見を聞いてみたかったです。地域の方々がどういった意見を持っているか興味があります(M1)。
・離島医療のよい点を藤村先生からあまり聞いていません。いい点を聞きたかったと思います（M1)。
・特にありません（M2)。
・改善点というわけではありませんが、診察風景を見学してもわかることが少なかったです。エコー検査も前日に説明をしてもらったのですがよくわかりませんでした。次は、ちゃんと勉強していきます（M2)。
・充実した実習だったと思いますが、やはり患者さんが午前に集中していたので診察時の見学は午後からだと患者さんが少なく時間がときどき空くのでもったいないなと思いました（M3)。
・　改善というか、反省になりますが・・・もっと時間いっぱい積極的に患者さんや先生方と接していければよかったなと思います（M3)。
(次回以降希望する実習地)
・与論島(M1)。
・甑島、奄美大島（M1）
・実習を受け入れていただける所であれば、どこでもありがたいです（M2）　。
・喜界島→祖父母の家があり、どんな医療を受けていたのか知りたいから（M2）
・奄美大島の医療状況について興味があります（M3)。
・1 名医師の診療所、複数名の診療所、離島の病院
　自分たちが働きにいく可能性のある診療所や病院が、今どんな様子なのか、という興味はありますが、実習に行かせていただけるならどこでも行ってみたいです（M3)。

3. 県の中俣室長の講演についてについて

(良かった点)
・鹿児島県の離島医療の現状を知られて、とてもよかったです、そのほかにも県の方の考えというのも聞けて、まだ 1 年生でいろいろなことは分からないのですが、勉強になりました（M1)。
・僻地の実情を詳しく聞けてよかったです(M1)。
・鹿児島県の統計資料を見る機会はめったにないので、貴重な機会だったと思います(M2)。
・鹿児島の離島・僻地医療に対するおもいが聞けました。自分の思いも再確認できました（M2)。
・鹿児島県は大小さまざまな離島があり、数字的な情報をみてもたくさんの違いがあり、それらを県としてどう把握しているのか聞くことができてよかったです（M3)。

・鹿児島県での僻地・離島医療の現状が、少しわかりました。どのような問題を鹿児島県が抱えているのか、またそれにたいしてどのような対策をとろうとしているのかが資料や説明を通してわかりました（M3)。

(改善したほうが良い点)

・特に無かったと思います(M1)。

・私たち地域枠の学生の今後について、もう少し聞きたかったです（M1)。

・特にありません（M2)。

・特にありません。自分が質問を思いつかなかったのが残念です（M2)。

・とくにありません（M3)。

・特に思いつきません（M3)。

(次回以降希望する講演内容)

・来年からの地域枠の学生と私達 6 人との違いというか、目標あるいは求められているものの違い（求められているものは同じかも知れませんが・・・）などをもっと詳しく知りたいです(M1)。

・私たちがどのようなところで研修することになるのか、その際どういうデメリットがあり、努力すべき点はどのようなところなのかを聞かせていただきたいです（M1)。

・多くの先生方の貴重な経験談を聴いてみたいです（M2)。

・まだ思いつきません（M2)。

・県としてどういう状況が医師が足りている(医療環境が充実している)と考えているのかについて。など（M3)。

・例えとして、自治医科大学のことがよくあがっていたのですが、自分の勉強不足でいまいち自治医科大学の現状をなんなくしか知らないため、できればそれについてのお話をしていただけたらと思いました（M3)。

4. 宿泊施設について

(良かった点)

・寝具や風呂、トイレなどほとんど不自由無く、またバーベキューなどもできたのでとてもよかったです(M1)。

・景色も綺麗で先輩方と話もできてよかったです（M1)。

・鹿大の施設を利用することができたことです（M2)。

・寝るところがあったこと（M2)。

・宿泊料が安価であれば今回利用したような施設で私はかまわないです（M3)。

・設備の整ったところで、泊まりやすかったです。ありがとうございました（M3)。

（改善したほうが良い点）
・「立入禁止」と書いてある場所が合って少し怖かったです(M1)。
・特にありません（M1)。
・特にありません（M2)。
・みんなが集まるところにはなんでもいいので涼しいものがほしかったです（M2)。
・とくにないです（M3)。
・特に思いつきません（M3)。
（次回以降希望する宿泊施設）
・今回のような施設が次回以降の離島であるのか分からないので、特に希望はありません。どういった施設でも結構です(M1)。
・特にありません（M1)。
・今回のように大学の施設を利用できれば制約なく実習が行えると、今回の実習を通して感じました（M2)。
・寝られればどこでも結構です（M2)。
・夏季に利用するところであればやはり多少はクーラーがきくようなところであればと思います。(今回利用した施設ぐらいあれば十分なのですが…)（M3)。
・特に思いつきません（M3)。

5. 宴会・観光などについて

（良かった点）
・中俣室長や教授の先生方、2・3 年生の先輩達と交流が深められ、とても良い機会でした(M1)。
・初めて離島に行きました。車での移動や川での食事、宿泊施設の前にカニがいたことなど、とても心休まる雰囲気で、よかったです。いい場所だなぁ、と心から思いました（M1)。
・少ない時間ではありましたが、数か所観光ができ、島の状況等が分かったので良かったです（M2)。
・食事はとてもよかったです（M2)。
・先生方や下級生とゆっくり話す機会がいままであまりなかったので、今回のようにゆっくりと交流ができてよかったです（M3)。
・　いろいろと準備などしていただきありがとうございました。大変楽しい時間を過ごすことができました。先生方とあのようにじっくり話をするという機会など普段はあまりないため、すごくいい刺激になりました。ありがとうございました。
　観光もしっかり考えていただき、短い時間でしたが面白かったです（M3)。

（改善したほうが良い点）

・最終日が雨だったので、仕方が無かったのですが、もう少し屋久島のあちこちを巡ってみたかったです(M1)。

・雨が降らなかったら…と思いますが、雨も体験できてよかったかなとも思います（M1）　。

・特にありません（M2)。

・観光は雨が降ってしまいとても残念でした。改善はできませんが晴れればよかったです（M2)。

・観光施設にいけてとても楽しかったのですが、もし実習のスケジュール上都合があわないような場合であればなくてもかまわないです。もちろんせっかくなので観光できればうれしいですが…（M3)

・特に思いつきません（M3)。

6. 今回の実習を通して

（良かった点）

・いろいろな方とお話ができ、交流が深められただけでなく、自分の中でまだはっきりしていなかった離島医療というものが以前より明白になり、とてもよかったです(M1)。

・医療だけに限らずいろんな人といろんな話ができてよかったです（M1)。

・離島医療への理解が深まることで、離島医療で求められることをこなすために今後自分がどんな技術や能力を身につけるべきか具体的目標を立てることができたのでよかったと思います（M2)。

・市内にいても病院見学はなかなかしにくいので、こういう機会を与えてもらえてよかったです。加えて、見学だけではなく、患者さんに対してではありませんでしたが、実際に聴診などができたことも面白いことでした。また、普段はあまり顔を合わせない推薦枠の先輩や後輩と交流できたこともよかったです（M2)。

・今まで種子島で生活してきましたが、お隣の屋久島ではまたちょっと医療状況が異なっていたのでそれを知ることができてよかったです。あと、地元で働く先生や学校の先生方ともお話ができる機会があってよかったです（M3)。

・今回の実習では多くのことを学び、またいろいろなことを考えるよい機会となりました。正直なところ、自分の将来について具体的に、明確に、イメージできている、というところまではまだまだ至りません。しかし、勉学のほうでも臨床科目が増えてきて、徐々に「将来」のことをしっかりと考えながら学生生活を送らなければならないな、と改めて感じました。先生方が真剣に、今後のこと、将来のことを考えてくださっているのを感じ、それに応えられるよう、一層の努力をしていこうと思いました。

　また、学校ではなかなか接する機会がない１・２年生とも交流するいい機会となり、よか

ったです。
　今回このような場を設けていただき、本当にありがとうございました。これからもまた、よろしくお願い致します（M3）。

（改善したほうが良い点）

・まだ、今の段階では受身的な実習だったので、これからは徐々に自分たちがしたいことなど提案していけたらと思います(M1)。
・私たち１年生のために違う日程まで組んでくださってとてもありがたかったのですが、ばたばたしてしまって雰囲気をあまり味わえなかったです（M1）。
・特にありません（M2）。
・今回の実習中に聞いた話は医師側からみたもののほうが多かった気がするので、次回以降はもっと地元の方々と交流をして、どんな医師が求められているかを少しでも知りたいです（M2）。
・次回はぜひ１年生もスケジュールがあえばいいなとおもいます（M3）。
・特に思いつきません（M3）。

（今後開催する頻度）

・年一回夏休みに行うという形で良いと思います(M1)。
・年に２回くらい（M1）
・部活動のある人には今回の日程は少しきつそうに見えました。大学の講義等に影響のない時期の開催を今後も希望します（M2）。
・年に一度か二度でいいと思います。夏だけでなく、春か冬にもいってみたいです（M2）。
・夏季休暇に２泊程度がちょうどよいと思いますが、今回のように試験にかぶらないように、あとできれば大会とかさならないと嬉しいです（M3）。
・まだ今のところよくわかりませんが、５・６年と卒業が近づくにつれ、回を増やしていただけるとありがたいのかな、と思います（M3）。

7. 離島医療に対する理解・関心はどうなりましたか

・今までは少し不安を抱えていた部分もあったのですが、この実習を通しその不安を和らげることができ、また離島医療に対する理解、関心を深められました(M1)。
・自分の今後についていろいろと考えました。離島で医療をする者が専攻するのは何がいいのかなど、考えました。理解関心が深まったというよりも、たくさん疑問点が出て来て、知らないことが多いとあらためて実感しました（M1）。
・これまで離島医療を学ぶにあたっては主に資料を通じて理解するという手段しか取れなかったので、離島医療を理解するにも限界がありましたが、実際に現地で働く先生や地元の人の話を聞いたり、あるいは医療現場を見たりすると、資料で学ぶよりも説得力があってなおかつ離島医療を理解しやすかったです。以前よりも自分の中での離島医療への関心度が上がったように思います（M2）。
・診療所で先生の話を聞いたり、宿泊地で中俣先生の話を聞いたりして離島医療に携わる

医師が求められているのだなということを改めて実感しました。また、屋久島に行ったことで、自分が医師になろうと考えるようになったきっかけを思い出し、目的の再確認もできました。これからも頑張っていきたいと思えました（M2）。
・今まで自分が仕事をするようになるということについて考えるとあまり現実感がわきませんでしたが、先生方や中俣室長さんのお話を聞いて、自分ももう３年生なのでじっくり今後について考えていく時期になったのではないかなと感じました。やはり実際に離島でお仕事をされている先生、されていた先生方のお話は参考になる部分がたくさんありました（M3）。
・やはり、実際の現場を見学させていただいたり、先生方のお話を聴かせていただける、というのはすごくありがたいです。それによって、理解も関心も深まっていきました（M3）。

第1回離島へき地医療特別セミナー（地域枠学生）を行って

離島へき地医療人育成センター
センター長　嶽崎俊郎

このセミナー（実習）の趣旨は、離島へき地離島を目指す学生に、離島医療への理解とお互いの人的ネットワークを深めてもらうことである。これまでは、2名の地域枠学生に対して、入学後に医学部長とともに面接した際に夏期の離島医療実習を勧めてきた。最初の地域枠学生が3年生になり臨床医学の講義が始まるとともに、1～3年生まで計6名になったこと、また、来年度から地域枠入学制度に変更があることより、現在の6名に対する離島へき地医療に関わる教育支援の必要性が高まり、今年度から特別な医学教育を系統的に支援することにした。

今回は、まず、離島に集まり、離島医療の現場を体験することから始めた。まだ、臨床医学の各論を学んでいない1～2年生には難しい内容もあったが、臨床を理解するためには、解剖学、生理学、生化学を始めとする基礎医学の知識と理解が重要であることは理解してもらえたと思う。栗生診療所での体験は、離島へき地医療ロールモデルとして、医師の役割を学ぶ上で有用であった。これらの体験により、離島へき地医療に対する意欲とともに、これからの医学学習に対する向学心も高めることができる。

今回の実習によって、今後の支援の在り方に関しても有益な情報が得られた。今後の取り組みとして検討すべき点として、1）1～6年生を通じての具体的な特別カリキュラムの作成、2）上級生が下級生を教える屋根瓦方式の導入、3）人的ネットワークの形成、4）離島へき地を含む医療・保健・福祉現場での実習、5）県や市町村など行政との連携、6）離島へき地住民とのふれあい等が挙げられる。

当コースを行うに当たっては、屋久島町栗生診療所の藤村憲治先生に熱意ある実習を行って頂き、さらに鹿児島県保健福祉部・保健医療福祉課・医療制度改革推進室の中俣和幸室長には屋久島で講演をして頂きました。また、離島へき地医療人育成センターの大脇哲洋先生、根路銘安仁先生、藤原由紀子さん、新川佳美さん、国際島嶼医療学講座の新村英士先生、小野原美絵さんには周到な準備と実務に対応して頂きました。この場を借りて、深謝いたします。今後、地域枠学生に対する離島へき地医療特別セミナーをさらに発展充実させ、鹿児島県の地域医療を担う医療人育成を支援していきたいと考えています。

2008年夏季地域枠医学生実習を企画して

離島へき地医療人育成センター　大脇哲洋

いわゆる地域枠医学生は、その条件が各地方で少しずつ異なっている。地方自治体が通常入学者の中から、希望者に奨学金の形で金銭的補助し、卒後地域就労の場合には返済を免除する地域もあれば、鹿児島県のように、特別入試枠で応募させ、就学時期の金銭補助を行い、卒後 5 年間の離島へき地勤務を義務化しているところもある。卒後の義務年限もさまざまであり、鹿児島県の 5 年間はかなり短いほうであろう。鹿児島県のここ 3 年間の地域枠医学生は、入学選抜が通常入学者と異なっており、独自の入試方式を取っている。対象学年も、鹿児島県内の高校卒業者（新卒および 1 浪卒まで）で、各高校からの推薦は 2 名までである。定員も少なく 1 学年 2 名であり、平成 20 年度で 3 年目で、合計 6 名。この 6 名が今回のこの実習の対象者である。来年度からはこの体制が破棄され、7 名の特別入試枠および 3 名の学士入学者の 10 名が通常入試と別に選抜される。卒後の義務年限も 9 年間となっており、卒後の研修勤務先は鹿児島県内であればよい。公募対象者は鹿児島県内の高校卒業者で新卒、浪人を問わない。各高校から 5 人まで推薦可能となっている。

すなわち、今回のこの実習に参加した 6 名は、来年度からの地域枠医学生とは、勤務先も期間も異なる医学生である。特に卒後離島へき地に赴くことは自治医大の医学生と似た条件と言える。しかしながら自治医大の学生と大きく違う点は、学生時期に他の通常の学生と同じように教育を受ける点である。自治医大であれば、通常同郷の学生は縦の繋がりも強く、また同級生同士も同じような環境下で将来働く志を持っており、横の繋がりも強いと考えられるが、この 6 名にはそれがない。加えて卒業後の研修ルートも自治医大のように確立したものはまだ設定されておらず、将来のビジョンが見えていない。

これらの問題は、彼ら自身が解決できる問題ではなく、地域として、また教育機関の大学として特別なサポートは当然必要である。今回の実習の企画はその一つの形を提示したものであり、今回参加の医学生には十分伝わっているものと考えている。地域の医療に触れ、コミュニティ社会の中での医師としての生き方を直接見ることは、医師を目指した初心を振り返る機会を与えてくれる。それを 6 人で体験することにより、少しでも縦の繋がりができたら、卒後大きな心の支えとなることであろう。

きっかけを与えれば、優秀なこれらの医学生は自分で問題点を見出し、学習することができることは、彼らの実習に対するコメントを見れば明らかである。これからも繰り返し実習を行うことにより、更なる成長を期待する。

地域枠学生に対する「離島医療学特別セミナー」について

国際島嶼医療学講座
新村英士

１　初日の研修（血圧測定・聴診・エコー検査）

今回の研修では試験日程の関係で１年生が初日は参加できなかったため、2〜3 年生に対してのみ研修を行った。エコー検査について、3 年生はちょうど講義で学んだばかりの内容だったので知識としてだけしか理解できていなかったものを実際にエコーの画面を見て、また自分でプローブを操作して検査することを体験し、非常に役に立ったようである。しかし、2 年生にとっては解剖学の知識しかない段階では若干、理解は難しかったようである。ましてや解剖もやっていない 1 年生が参加していたら単に見るだけであまり役には立たなかったのではないかと考えられる。学年ごとに学習進度にあったきめ細かい実習プログラムを考えていきたい。

２　診療所（栗生診療所）実習

離島・へき地の現場で地域医療に携わっている藤村先生の診療風景を見ることにより、学生達がそれまで頭の中の想像だけで考えていた「地域医療」というものを、より具体的なものとして感じ取ってもらえたようである。大学での講義だけではわからない医療面接の大切さや難しさ、患者さんの背景にある地域の生活についても考える機会となったようである。今後の大学での講義に対してもそのような視点を持ちながら学習していってほしい。

３　鹿児島県（中俣室長）の講演

学生達は皆、「地域の役に立ちたい」という熱い思いを持って入学してきているが、実際に鹿児島の地域医療の現状、問題点などを学習する機会は大学の正規の講義だけでは十分とは言えない。今回の実習で鹿児島県の中俣先生からお話を聞くことによってどの様なことが実際の医療現場で問題となっているのか等をある程度わかってもらえたようである。ただ、まだ学年が低いせいでもあると思うが、卒業後の自分たちのキャリアパスについてまでは具体的な考えが及ばないようである。

４　宿泊施設、食事会、観光

実習先の屋久島では宿泊施設として鹿児島大学屋久島町共同研究フィールドステーションが使えたため、学生達の経済的負担を軽くすませることができよかった。学生達の講義がない夏期休業中しか実習を行えないため、8 月初旬の一番暑い季節に行わざるを得なかったが、フィールドステーションのリビングのエアコンが壊れていたため、学生達に大変暑い思いをさせてしまったようであり、申し訳なかった。また、建物の管理をしている方から「猿がベランダに侵入してくる事があるので窓を閉めておいてください。」との注意を受け、2F の窓も開けることができなかった。食事会では異なる学年の学生達同士での交流が深められた。

５　今回の実習全般

今回の実習は地域枠学生に対する初めての実習であったため、日程調整がなかなかつかず、結局 1 年生は一日短い実習になってしまった。学年によってカリキュラムが違ったり、サークルによっては西医体の日程が重なったりでなかなか全員一緒の時期に実習を行うのは難しい。来年度からの地域枠では人数も一気に増えるので今年以上に周到な準備が必要である。

第１回離島へき地医療特別セミナー（地域枠学生）の評価

離島へき地医療人育成センター
根路銘　安仁

１　初日の研修（血圧測定・聴診・エコー検査）

１年生は日程の都合で参加できなかったが、２年生、３年生は満足していたようである。講義で学ぶが実際に触れることない手技が関心を集めるようだ。地域枠学生であることから、実際に診療所で行うことになる手技を中心に行っていくのがよいと思われる。全員が参加できなかったのが残念だったが、導入としての研修は非常によい企画で、今後も継続していくのがよい。

２　診療所（栗生診療所）実習

日程がきつかったせいもあるが、１年生はここでも充分に見学ができなかったようだった。２、３年生は、診療所待合室での患者さんとの会話、診療見学、ゆっくりかんを実習した後で藤村先生の地域医療に対する講義を聞くことができて、モデルケースをしての医師像がより具体性を持った存在として認識することができるようになったようだ。やはり、実際の現場で働いている医師に触れる実習は、学生に与える影響は大きく今後も多くの離島へき地診療所で実習し多くのモデルケースに触れて、地域枠学生の将来の選択肢を増やす環境を整える必要があると感じた。

３　鹿児島県（中俣室長）の講演

鹿児島県の離島医療の統計資料など実際に講演を聞いて初めて聞いた学生も多く、離島医療に対して理解が進んだようだ。次回から希望する内容として、鹿児島県が彼ら地域枠学生に計画している将来の研修先、研修方法、医療環境を具体的に聞いてみたいとの感想が多く見られた。やはり、地域枠学生で入学したものの将来に対する不安は大きく、具体的な計画案などを鹿児島県と協力して作成し提示することが必要だと考える。

４　宿泊施設、食事会、観光

今回、鹿児島大学屋久島町共同研究フィールドステーションに宿泊したが、エアコンが故障しているところがあった以外は満足していた。今後の宿泊先についても安価にしてほしいとの声があり、学生の経済事情を考慮すべき点である。やはり実習に対して経済的な援助が必要と考える。

食事会については、全員で一緒にすることができ教官学生間、学生同士間の交流が深まり、今後もこのような機会を持つほうがよいと考える。観光の設定ではあるが地域を知ってもらうことを目的としている。今回は時間的制限、天候もあり少ししたのみであった。そのため今後は、さらに離島の風土、住民との交流を深める企画を立てたい。

５　今回の実習全般

今回の実習は、初日の研修（血圧測定、聴診、心エコー）は参加者が大学での講義とはことなり、実際に手技を体験がすることができて満足が得られていた。栗生診療所実習は、モデルケースをしての医師像がより具体性を持った存在として認識することができるようになり充分な成果があった。鹿児島県中俣室長の講演も初めて鹿児島県の離島医療の現状を知る機会となりえ、２泊３日の強行日程であったが満足いく成果が得られたものと考える。

ただし、予想通り地域枠学生の抱える将来の不安があることが明らかとなった。今後地域枠事業主体である鹿児島県と共同で、具体的な進路を設定し学生の抱える不安を取り除く必要がある。また、地域枠学生の派遣が予定されている地域を中心に、さらに離島・へき地の風土を知り、住民との交流を深める企画を立てたる必要がある。今後は、年に１度の頻度で計画する予定である。

◆スタッフ紹介

▼嶽﨑俊郎 （センター長　兼　国際島嶼医療学講座教授）
平成15年11月に赴任し、現在、研究テーマとしては島嶼における長寿とがん予防に関する分子疫学研究を中心に活動している。
専門領域　:国際島嶼医療学、疫学、がん、長寿科学、小児科学
研究テーマ:国際島嶼医療学、がん分子疫学、長寿分子疫学

▼大脇哲洋 （特任教授）
専門分野:消化器外科、乳腺内分泌外科
日本外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本癌治療認定医　その他多数所属

▼根路銘安仁（特任助教）
専門分野:小児リウマチ　小児保健
日本小児科学会、日本小児リウマチ学会、日本小児保健学会、日本外来小児科学会、日本リウマチ学会　日本感染症学会　所属

▼新村英士（国際島嶼医療学講座　講師）
専門領域　:国際島嶼医療学、長寿科学、循環器学
研究テーマ:国際島嶼医療学、分子疫学

Go to the future★

2008年夏季夏季地域枠学生に対する離島医療学特別セミナー